

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
北海道立近代美術館	011(644)6811	札幌市中央区北1条西17	9時30分～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	御大典記念 よみがえる正倉院宝物—再現模造による天平の技 ▼9月15日～11月7日 →正倉院に納められた数々の宝物。その魅力を多くの人に伝え、卓越した技術を伝承するため、当初の姿を再現する模造製作が、治時代より行われてきた。人間国宝らによる技と最新の科学的調査により再現された逸品を展覧
札幌芸術の森 工芸館	011(591)0090	札幌市南区芸術の森2の75	9時45分～17時(入館30分前)	会期中無休	クラフトギャラリー VEST POCKET—夏— ▼7月17日～9月26日 →夏に相応しい涼しげなガラス作品のほか陶器、テキスタイル、木工、ジュエリーなど選りすぐりの作品を展示販売
東北歴史博物館	022(368)0101	宮城県多賀城市高崎1の22の1	9時30分～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	染めの型紙 ▼7月6日～12月5日 →かつては女性が家で機を織り衣服を自給していたが、布に文様を染める場合には村の染物屋に頼んだ。文様染めの方法には友禅染め、絞り染めなどがあり、なかでも広くおこなわれたものとして、図案を切り抜いた型紙の上に糊を載せて防染する型染めがあった。型紙を使うことで自由な形や細かな文様を繰り返し染めることができるが、これを彫るには高度な技術が必要とする。そのため、伊勢、京都、江戸といった特定の産地が形成され、そこで生産されたものが全国各地の染物屋に流通していた。同展では、宮城の染物屋に残された型紙を紹介する
小松クラフトスペース	018(837)1118	秋田市中通4の17の9	10時～18時	会期中無休	手仕事の美 ▼8月16日～9月4日 →福島県の奥会津から山ぶどう、マタタビなどの編み組細工を紹介する。寄神宗美・千恵子作品展も同時開催。また企画コーナーで「世界の民藝」をテーマにした展示
ギャラリー創芸工房	0246(29)3826	福島県いわき市鹿島町走熊小神山60の1	10時～18時(最終日～17時)	会期中無休	一爽やかに・心地よく—秋の衣展 ▼9月18日～26日 →8名の作家による、秋の彩り、心地のよい洋服やストール・革のバッグやアクセサリなどを展示
昭和のくらし博物館	03(3759)1808	大田区南久が原2の26の19	10時～17時	※金～日曜、祝日のみ開館	「スフとすいとんの昭和」展 ▼～22年3月31日 →戦争はありとあらゆる面で人びとに多大な惨禍をもたらし、くらしのすべてはくらしのすべては戦時体制に投げ込まれてしまう。綿の代わりに「スフ(ステープル・ファイバー、代用繊維)」、米の代わりに「すいとん(小麦粉などを団子のように固めた代用食)」と生活物資の極端な欠乏、厳しい監視社会、空襲と、先が見えない絶望的な日々が続く。同展では、衣食住それぞれにおける代用品の誕生と傅われ方、当時の社会情勢について展示し、戦争がいかにくらしを破壊するものであるかを検証する
文化学園服飾博物館	03(3299)2387	渋谷区代々木3の22の7新宿文化クイントビル	10時～16時30分(入館30分前)	日曜・祝日休み	公益社団法人京都染織文化協会創立80周年記念 再現 女性の服装1500年—京都の染織技術の粋— ▼7月15日～9月28日 →平安遷都以降、貴族や武家、そして裕福な町人の華やかで贅沢な衣生活を支えたのが、都の工人たちだった。応仁の乱で京が一時灰燼に帰すことがあっても、工人たちはこうした苦難を乗り越え、新たな染織技術を次々に生み出して、現代に至っている。しかしその間、京都の染織が一時期低迷することもあった。昭和6年(1931年)、京都の染織業の振興を図るために行われたのが京都染織祭。同展では、当時の京都の染織技術を結集して復元された、古墳時代から江戸時代後期に至る女性の衣服を展示して日本の女性の装の1500年をたどるとともに、当館所蔵の江戸時代後期から昭和初期の優品を通して京都の染織技術の真髄を探る
神楽坂フラスコ	03(3260)9055	新宿区神楽坂6の16	11時～19時(最終日～15時)	会期中無休	絹トモコ紅型展～こころ弾むように～ ▼9月10日～13日 →新作の帯や半巾帯、紅型小物を展示
江戸東京博物館	03(3626)9974	墨田区横綱1の4の1	9時30分～17時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	大江戸の華—武家の儀礼と商家の祭— ▼7月10日～9月20日 →江戸の武家や商家の儀礼、祭りなどの年中行事をとりあげ、江戸の人びとの暮らしや人生における「ハレ」の場面や舞台を描いていく。同館が所蔵するコレクションからよりすぐりの品々をはじめ、国内各所から、染織品を含む優品を集めるとともに、イギリス・アメリカからも二領の鎧が日本に里帰りする。これらの展示品は、江戸に生きた人々の明日への活力を伝える
東京都美術館	03(3823)6921	台東区上野公園8の36	9時30分～17時30分(入館30分前)	月曜休み	日本手工芸美術展覧会 ▼9月9日～17日
巷房	03(3567)8727	中央区銀座1の9の8奥野ビル	12時～19時(最終日～17時)	会期中無休	岡本直枝展—植物のすがた II— ▼9月13日～18日 →テキスタイルアート 三尾秋子展—しなの木標本室 II ▼9月13日～18日 →繊維造形作品

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
永青文庫	03(3941)0850	文京区目白台1の1の1	10時~16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	美しき備え—大名細川家の武具・戦着— ▼7月23日~9月20日 →戦国時代、武将は数多くの武具・戦着を誂えた。それらは優れた機能性だけでなく、見た目や意匠にも工夫を凝らし、軍や自らの士気を高めた。また、泰平の世が続いた江戸時代も、武家の格式を象徴的に示す道具として代々が備えた。そのため、大名家伝来品の中には、武将たちの美意識を反映した個性豊かな武具・戦着が散見される。同展では、永青文庫に伝わるものの中から、2代・忠興が考案したと知られる具足形式「三斎流」の具足や、3代・忠利所用と伝わる変わり兜、南蛮服飾を意識した陣羽織など、美的素養の豊かな藩主たちが誂えさせた武具・戦着を紹介する
伝統工芸青山スクエア	03(5785)1301	港区赤坂8の1の22赤坂王子ビル	11時~19時(最終日~18時)	会期中無休	東京手仕事展~寄り添う工芸。使う工芸。~ ▼8月20日~9月2日 →東京の「伝統工芸品」は、進取の精神に富む江戸職人の匠の技と心意気によって、磨かれ、洗練され、そして庶民に愛されて連続受け継がれてきた。「東京手仕事」は、そんな伝統の技に光を当て、匠の繊細な「手仕事」の魅力を国内はもとより世界に発信していく取り組み。その「粋」で「いなせ」な味わい、東京の「伝統工芸品」を紹介。会期中製作実演
大倉集古館	03(3583)0781	港区虎ノ門2の10の3	10時~16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	能Noh~秋色モード~ ▼8月24日~10月24日 一色と模様多彩の組み合わせにより「デザインの宝庫」とも称される能装束を中心に秋らしい作品を選びすぎり、能のストーリーをあやむず謡曲との関係性にも触れる。秋の謡曲にふさわしい能面、華やかな絵画工芸作品も併せて紹介する
サロン・ド・フルール	03(5485)8748	港区南青山5の7の25フール南青山1F	11時~18時(最終日~17時)	会期中無休	アトリエFl flowers刺繍展 ▼9月14日~19日
国立新美術館	03(5777)8600	港区六本木7の22の2	10時~18時(入館30分前)	火曜休み(祝日の場合翌休)	ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会 ▼6月9日~9月6日 →1970年代以降、日本人ファッション・デザイナーたちは世界的に高い評価を得てきた。これまで、日本のファッションは、彼らを契機に突如として誕生したかのように語られてきましたが、実際はそうではない。明治期に日本が近代国家となり洋装を取り入れたことを契機に、第二次世界大戦後には洋装が一般的になり独自の装いの文化を展開してきた。同展では、特に戦後の日本におけるユニークな装いの軌跡を、衣服やアイデアを創造するデザイナー(発信者)サイドと、衣服を着用し、時に時代のムーヴメントを生み出すこともあった消費者(受容者)サイドの双方向から捉え、新聞、雑誌、広告など時代ごとに主流となったメディアも参照し、概観する。これまでまとって紹介されることのなかった、洋服を基本とした日本ファッションの黎明期から最先端の動向を、社会的背景とともに紐解く、世界初の展覧会
日本民藝館	03(3467)4527	目黒区駒場4の3の33	10時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	日本民藝館改修記念 名品展II—近代工芸の巨匠たち— ▼7月6日~9月23日 →近代工芸の巨匠、バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈介、棟方志功。当館創設者の柳宗悦と親しく交流した彼らは、生活に役立つ実用工芸を中心に、近代を代表する優れた作品群を生み出した22回目の改修記念名品展では、柳の思想に共鳴し、制作活動に生かした工芸作家の代表作を中心に展示
目黒区美術館	03(3714)1201	目黒区目黒2の4の36	10時~18時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	包むー日本の伝統パッケージ ▼7月13日~9月5日 →日本のデザイン黎明期に、わが国の伝統的なパッケージの収集と研究を続け、「TSUTSUMU(包む)」という言葉とともに大きな足跡を残したデザイナー・岡秀行。木・竹・藁・土・和紙・布など、自然素材のパッケージに向けた岡の眼差しから見えてくる「包む」ことに日本人が込めた想いや手わざの美を、同館所蔵の岡コレクションにより紹介する
ギャラリー遊	042(345)8481	小平市天神町2の5の23	11時~18時	会期中無休	手描き衣簾二人展 ▼8月13日~9月5日
群馬県立日本絹の里	027(360)6300	群馬県高崎市金古町888の1	9時30分~17時	火曜休み	大竹夏紀展 Mount Penglai ▼9月9日~10月18日 →伝統的な染色技法である蠟けつに、染色アーティスト大竹夏紀独自の感性が加わることで創造されるアイドル、女神たち。ポップで愛らしいシルク現代染色アートを紹介する。アーティストトーク:9月9日・10月3日11時~11時30分・13時30分~14時(無料・申込不要)
高崎市染料植物園	027(328)6808	群馬県高崎市寺尾町2302の11	9時~16時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)、	収穫品展「草木染の美 夏から秋へ」 ▼7月22日~10月31日 →「夏から秋へ」というテーマに沿って、季節を表わした配色や、季節を感じられるモチーフが表現された草木染作品を展示。襲の色目からは「蝦手紅葉」という名のついた色の組み合わせを紹介。また「紫根紋り赤子着」、「黄丹の御袍を召した立ち雛」が今回初めて展示される。また、刺繍糸と金駒繡で楓、萩、菊などの秋の植物の図案が表現され、地色の萌葱色や刺繍糸は藍と黄色染料の重ね、楓の葉などの刺繍糸は紅花染によるものと思われ、身分の高い女性に仕えた女官の着物と推測される「萌葱色公家着物」も初出品となる

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
ギャラリーかれん	045(543)3577	横浜市港北区大倉山1の11の4	11時~18時	会期中無休	<p>無敵大展 ▼8月30日~9月4日 →テキスタイル、洋服など</p> <p>クチュック展 ▼9月13日~18日 →刺繍作品、刺繍製品</p> <p>創作遊人展 ▼9月27日~10月2日 →革細工 織物 パッチワーク ビーズ細工</p>
横浜市歴史博物館	043(912)7777	横浜市都筑区中川中央1の18の1	9時~16時30分	月曜休み(祝日の場合開館)	<p>布 うつくしき日本の手仕事 ▼7月17日~9月20日 一人々が日常のくらしで着る衣服は、江戸時代以降は木綿が、それ以前は様々な草や木が素材だった。時間と労力を費やして、草木から繊維をとり、糸にして布を織る。その布から仕立てられた日常の着物には、暖かさや丈夫さといった実用性を高めるため、刺子や型染などの手仕事の技が施された。なかでも東北地方で生まれた「こぎん」や「菱刺」の美しさは国内外で高く評価されている。日本で伝統的に使われてきた草木を素材とした布と、主に東北地方で用いられた刺子や型染、また裂織など注目し、美しく細やかな手仕事の世界を紹介する</p>
長岡市栃尾美術館	0258(52)6300	新潟県長岡市栃尾上の原町1の13	9時30分~17時(入館30分前)	月曜休み	<p><展示室Ⅱ> 栃尾の手織物と絹文化2021 ▼7月17日~9月5日 →栃尾地域には栃尾紬と呼ばれる手織物が受け継がれてきた。しかし、時代の変化とともに技術や伝承が失われてゆきつつある。昨年度に続き、2回目となった今回の展示は、長岡造形大学の菊池加代子教授などによる昨年からの調査で新しく集まった、旧家に所蔵されていた着物をはじめ、養蚕や機織りが盛んに行われていた当時の様子がわかる資料などを中心で紹介</p>
成巽閣	076(221)0580	金沢市兼六町1の2	9時~17時(入館30分前)	水曜休み(祝日の場合翌休)	<p>前田家伝来 夏衣裳と調度展 ▼7月1日~9月27日 →前田家の奥方衣裳が数多く成巽閣に伝えられている。将軍家、紀州、尾張徳川家、鍋島家や公家の姫君が所持された単衣、麻を素材とした帷子・帯などが金糸銀糸を用い高度な刺繍で華麗に彩られている。江戸のこの時代、円熟した職人たちの技と洗練された意匠を紹介する</p>
国立工芸館	050(5541)8600	金沢市出羽町3の2	9時30分~17時30分(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<p>たんけん！こども工芸館 ジャングル台パラダイス ▼7月17日~9月26日 →植物のもつれるほどに伸び広がるさま、そこで命を繋ぐ動物たちの躍動。工芸にみる「自然」には、そんな原初以来の人の真摯な願いがたどれる。造形思考をめぐらせて枝葉を刈り込み、磨き抜かれた美には、なおも手の届かない彼の地からの誘い、こどもくリズムが響いているよう。工芸の森を探検しながら、今ふたたび、生の息吹を体感できる。子どもから大人まで楽しめるプログラムも用意</p>
石川県立美術館	076(231)7580	金沢市出羽町2の1	9時30分~18時(入館30分前)	8月9日~11日休み	<p>夏休み 親子でたのしみ美術館 はじめての工芸 ▼7月10日~9月12日 →石川県の工芸ってどんなもの？ 陶磁、漆、染織、金工などの作品やその作り方を、工程見本でわかりやすく紹介する</p> <p>ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへー日本を夢見たヨーロッパ工芸 ▼8月15日~9月12日 →ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟などの名品とともに、ジョルナイ陶磁器製造所などハガリーを代表する作品群を含め、厳選した約170点の名品を紹介</p>
松本民芸館	0263(33)1569	長野県松本市里山辺1313の1	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<p>アフリカとアジアの民芸 ▼3月16日~9月12日 →同館の創館者・丸山太郎の民芸蒐集は国外にもおよび、外来品の珍しさに感わされずその品の何が自分の心をこんなに強く打つたのか、自問自答しながら選んだといわれる。それらの中から、遠く離れたアフリカと、広いアジア地域の中でも中国、朝鮮以外の国に焦点を当て展示</p>
安曇野ちひろ美術館	0261(62)0772	長野県北安曇郡松川村西原3358の24	10時~17時	水曜休み	<p>現代の町絵師 笑いと反骨の画家 田島征彦展 ▼6月5日~9月5日 →田島征彦は、型絵染という技法を用い、ユーモラスかつ鋭い視点で創作をしてきた。81歳になる今も情熱的に制作を続けており、それをこめてつくられた作品の数々は私たちを魅了する。同展では、田島の絵本デビュー作である『祇園祭』をはじめ、抱腹絶倒の『じごくのそうべえ』、現代の社会に生きる子どもたちに視点をあてた『やんばるの少年』などの原画を紹介。また、大型インスタレーションも展示する</p>
岐阜市歴史博物館	058(265)0010	岐阜市大宮町2丁目18の1	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<p>近世能装束の世界 用の美—武家貴族の美意識— ▼7月17日~9月12日 →「能」は14世紀に大成された日本を代表する伝統芸能で、武家文化を中心に発展し、能面は、桃山・江戸時代初期に能装束は江戸時代中期18世紀に武家式楽として磐石の地位を得た時に完成した。脆弱な絹糸・色彩などの素材は、移りゆく時の流れによって退色と質感の変化、舞台装束の宿命である皸や傷みが生じる。修復による変化は一時限りの深い情致を薫らせ、能曲に登場する人物の深い内面に潜む微妙な心と唯一相応する。能装束の復原、制作により、能楽文化に貢献している山口能装束研究所の協力で能装束・能面の「用の美」を紹介する</p>

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
静岡市立芹沢銈介美術館	054(282)5522	静岡市駿河区登呂5の10の5	9時~16時30分	月曜休み(祝日の場合翌休)	芹沢銈介のブック・デザイン ▼7月6日~9月23日 →「夏」編は、芹沢銈介のデザインに焦点を当てた展覧会。芹沢デザインの中でも、圧倒的な質と量をほこる「装幀(ブック・デザイン)」の仕事特集。約50年間にわたる、300点を一挙公開する。川端康成・内田百閒、山本周五郎、獅子文六、佐藤春夫ら、数々の人気作家の名作を彩った芹沢デザインを紹介。あわせて、型染うちわや扇子など、夏らしいデザインの仕事も展示する
愛知県美術館	052(971)5511	名古屋市東区東桜1の13の2愛知芸術文化センター10F	10時~18時(金曜~20時、入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	<ギャラリー> 12th 糸布=if Exhibition ▼9月7日~12日 →テキスタイルアート
豊田市民芸館	0565(45)4039	愛知県豊田市平戸橋町波岩86の100	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	豊田国際紙フォーラム「IAPMA展」 ▼9月7日~10月17日 →豊田市で開催される国際紙フォーラムに合わせて、世界中から応募のあった「紙」を主体としたアート作品のうち、IAPMA(国際手漉紙生産者・紙アーティスト協会)が選定した優秀作品を展示
ギャラリーterra(清滝テラ)	090(5655)4568	京都市右京区嵯峨清滝町11の2	11時~17時(最終日~16時)	会期中無休	村田啓子・石畑美津子・音座マリカ作品展 ▼9月25日~10月3日 →能登山中の上よみ村で自給自足に近い暮らしを営む禅寺龍昌寺で藍染や柿渋染をする村田、ビーズや古布で自然の生き物をジュエリーにする石畑、野々花を描く音座による3人展
山科伯爵邸 源鳳院	075(752)1110	京都市左京区岡崎法勝寺町77	10時~17時	会期中無休	京茜—伝統工芸と天然染料の未来— ▼9月3日~5日 →京都府南丹市美山町で栽培されている日本茜による染色作品を展示。出品者は、北本益弘(型摺友禅)、寺田豊(絞染)、山本芽(手描き友禅)、服部芳和(京都産蚕の茜染刺繍糸)、明珍阿古(稚児籠)、細尾真生(有職織物)、上原晴子(細織)、服部敏樹(爪搦本綴)、山崎和樹(草木染)、山科言親(衣紋道)。トークイベント:北本益弘・山科言親・渡部康子・寺田豊。9月5日14時~(無料・予約不要)
ギャラリー翔	075(724)8154	京都市左京区北山通下鴨中通東入ル北側	11時~18時(最終日~17時)	月曜休み	吉田陽子展 ▼9月7日~12日 →染織作品 染・用・要・美 京の染 紀田秀夫展 ▼9月14日~19日 →染色による作品
川島織物文化館	075(741)4120	京都市左京区静海市原町265	10時~16時30分(入館30分前)	見学は要予約。土・日曜、祝日休み	守りたい贈るころ「福を呼ぶ帛紗(二)」 ▼4月26日~10月29日 →贈り物やご挨拶の品を持参する際には帛紗が用いられてきた。近年は目にする機会も少なくなってきたが、川島織物の帛紗生産の全盛期には、多彩なモチーフ・色柄の帛紗が使われていた。現在はあまり目にする事のないパターンや雰囲気のものもあり、デザインとしても興味深い帛紗が多くあった。初代・二代川島甚兵衛が研究のために収集した帛紗をはじめ、大正御大典記念帛紗や贈り手の思いが感じられる帛紗などを約30点を紹介
ギャラリーギャラリー	075(341)1501	京都市下京区河原町通四条下ル東側寿ビル5F	12時~19時(最終日~17時)	木曜休み	富永明日香展 ▼8月21日~9月5日 →ファイバーアート作品 本間晴子展 ▼9月18日~10月3日 →染色作品
京都絞り工芸館	075(221)4252	京都市中京区油小路通御池下ル	9時~17時	8月2日、13~16日、10月1日、11月1日、25日~30日、12月1日休み	巨大絞り几帳 神奈川沖浪裏展 ▼7月1日~12月23日 →6枚の大きなシルク生地を使い、北斎の神奈川沖浪裏をモチーフに絞りで染めあげた巨大几帳(幅6.5m、高さ3m)を展示。また「富岳三十六景」を題材に、絞り染めの技術を駆使して制作した絞り額全46枚も同時展示
楽空間紙をん小西	075(561)1213	京都市東山区祇園花見小路四条下ル西側	13時~19時(最終日~17時)	会期中無休	奈良平宣子・長野訓子・橋本リサ 愛しきモノの集い ▼9月4日~12日 →ミンスデッチを駆使したバッグやアクセサリ(奈良平)、刺繍によるアクセサリ(長野)、金属ジュエリー(橋本)などの作品を町家空間にしつらえる3人展
アサヒビル大山崎山荘美術館	075(957)3123	京都府乙訓郡大山崎町大山崎銭原5の3	10時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休、11月22日・29日開館)	和巧絶佳展—令和時代の超工芸— ▼9月18日~12月5日 →グローバル時代をむかえ、世の中をとりまくものの均質化が進むなか、日本各地で育まれてきた工芸や手仕事独自の表現を生み出す資源として見直されている。工芸というジャンルにとらわれることなく、素材を用い、技法を駆使して工芸美を探求する出品作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性の広がりを予感させる。同展では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されている1970年以降に生まれた作家12人を紹介し、これまで受け継がれてきた日本の手仕事の可能性を考える機会を示す。染織では、安達大悟が出品する

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
齋宮歴史博物館	0596(52)3800	三重県多気郡明和町竹川503	9時30分～17時(入館30分)	月曜休み(祝日の場合翌休)	再現！姫君の空間—王朝装束の華やぎと驚きの世界へ— ▼7月10日～9月5日 →絵巻や物語に基づき、平安時代の原型に近い女房装束を復元し、当時の儀式空間の演出を再現することで、雅な王朝文化を体験できる展示を行う
アートコートギャラリー	06(6354)5444	大阪市北区天満橋1の8の50AP7-コート1F	11時～18時(土曜～17時)	日・月曜休み	福本潮子展 藍の青 2021 ▼9月25日～10月30日 →「古布の魅力の次世代への伝承」をテーマに、意欲的に取り組む古布のシリーズの新たな展開を見せる現代藍染作家による6年振りの新作個展。麻、藤布、越後上布、対馬麻、オクノザックリ、大麻などの古布を素材に制作した藍染作品を出品
高島屋史料館	06(6632)9102	大阪市浪速区日本橋3の5の25高島屋東別館3F	10時～17時(入館30分前)	火・水曜、10月28日～11月5日休み	高島屋創業190周年記念展 キモノ★ア・ラ・モード ▼9月11日～12月20日 →高島屋にはかつて「百選会」という呉服催事があった。1913(大正2)年に第1回を開催、戦時中は一時中断しましたが、1994(平成6)年に休止するまでに183回を数えた高島屋の名物催事。百選会は単なる展示会ではなく、高島屋が毎回「趣意(テーマ)」と「流行色(テーマカラー)」を設定し、それに基づく「標準図案(デザイン)」を発表、全国の染織業者から新柄呉服を募集し、厳正な審査を経て製品化、販売する会だった。斬新かつ奇抜な百選会の呉服は、毎回大変な人気を集め、キモノ界の流行を左右するといわれた。「ウルトマ・モオダ」(流行の極地)を目指し、現代そして未来を生きる人々に夢のある美しい生活「ザ・キモノライフ」を提案し続けた百選会の歴史と作品を紹介する
堺市博物館	072(245)6201	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁大仙公園内	9時30分～17時15分(入館45分前)	月曜休み(祝日の場合開館)	堺敷物ものがたり ▼7月17日～10月3日 →江戸時代・天保2年(1831)にはじまった堺緞通について、新収蔵資料を中心にあらためて紹介するほか、機械織りの絨毯やフック緞通(ハンドタフト)、チューブマットなど、堺緞通からさまざまな種類の敷物生産が展開していく過程を追い、堺の敷物産業について紹介する
大阪日本民芸館	06(6877)1971	大阪府吹田市千里万博公園10の5	10時～17時(入館30分前)	水曜休み(祝日は開館)	型染 三代澤本寿 ▼9月4日～12月14日 →長野県松本市に生まれた三代澤本寿(1909～2002)は、染色家として数々の優れた作品を手掛けると共に、長野県松本の民藝運動の普及に尽力した人物でもある。三代澤は親戚の染料店を手伝う為に静岡に移り、そこで民藝運動に出会う。同じ頃、染色家・芹沢銈介の作品に触れた三代澤は、これに強い感銘を受け染色家の道を歩み始めた。技法は、図案の考案から染めまでの全工程を一で行う型染染を用い、屏風やパネル、のれんに着物など実に多彩な作品を残した。同展では、150点以上の三代澤作品を展示する
ギャラリー猫亀屋	072(425)4883	大阪府泉南郡岬町淡輪4193の2	10時～17時	火・水曜休み	Nexus展 ▼9月4日～12日 →石井香久子、栗田融、くろきみつる、松尾伊知郎による、ファイバーアート、紙の立体、土の造形などを展示
GALLERY北野坂	078(222)5517	神戸市中央区山本通1の7の17WALL AVENUE2-3F	11時～18時(最終日～17時)	会期中無休	型染展 ▼9月21日～26日 →8人の型染作家による、着物、帯、タペストリー、染め布などを展示
兵庫陶芸美術館	079(597)3961	兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4	10時～13時(入館30分前)	月曜休館(祝日の場合翌休)	フィンランドデザイン展 ▼9月11日～11月28日 →フィンレイソン社やマリメッコ社のテキスタイルをはじめ、同時代の絵画、アルヴァ・アアルト、カイ・ブランクに巨匠たちのガラス工芸や陶磁器、家具など、世界中の人々を魅了し続けるフィンランドデザインの名品を一堂に展示
姫路市書写の里・美術工芸館	079(267)0301	兵庫県姫路市書写1223	10時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	兵庫県工芸美術作家協会姫路展 ▼9月11日～10月24日 →県下で活躍する工芸作家「兵庫県工芸美術作家協会」会員の工芸作品(陶芸、染織、ガラス、皮革、漆芸、人形)約50点を展示
熊野古道なかへち美術館(田辺市立美術館分館)	0739(65)0390	和歌山県田辺市中辺路町近露891	10時～17時(入館30分前)	月曜休み	現代の織5 中野恵美子 ▼7月17日～9月12日 →日本及び世界各地の染織の歴史や技法の研究と並行して、異文化との交わりの体験から触発された独創的な作品を発表し続けている、中野恵美子の芸術を紹介。8月28日14時～アーティストトーク。要予約(先着15名※8月14日10時～電話予約開始0739-24-3700)
岡山県立美術館	086(225)4800	岡山市北区天神町8の48	9時～17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	岡山の美術展 草間詰雄 美しき色彩のコンポジション ▼9月4日～11月3日 →鮮明で美しい色彩を用い、立体的に構築した織作品、細いワイヤにコイルングし重ねあわせた作品、小さな丸いフェルトを重ねてピン打ちした作品など、日本のファイバーアートの第一人者として活躍する草間詰雄の50年にわたる創作活動を振り返る
島根県立石見美術館	0856(31)1860	島根県益田市有明町5の15	10時～18時30分(入館30分前)	火曜休み	コレクション展「ファッションを伝える、拡げる」 ▼9月1日～10月4日

ギャラリー名	電話	住所	時間	メモ	展覧会
瀬戸内海歴史民俗資料館	087(881)4707	高松市亀水町1412の2(五色台山上)	9時~17時(入館30分前)	月曜休み(祝日の場合翌休)	瀬戸内海の海上生活 ▼7月10日~9月26日 →瀬戸内海では、古くから行商や漁撈を行うために海上生活が営まれてきた。鳴門の堂浦を拠点に瀬戸内海全域にテグスなどの漁具を行商したテグス船の資料や、タイ網漁やサワラ漁の際、船上で使用した生活資料等を展示し、海上生活の具体的な様子を紹介
丸亀市立資料館	0877(22)5366	香川県丸亀市一番町(城内)	9時30分~16時30分(入館30分前)	月曜休み	ハレの日を祝うー婚礼衣装と嫁入り道具を中心にー ▼7月17日~9月5日 →婚礼をテーマに、館蔵品の中から大正、昭和期の婚礼衣装や嫁入り道具を中心に紹介。また、めでたい絵柄が描かれた絵画や玩具、吉祥文様が施された調度品や女性の装身具など「ハレの日」にふさわしい品々も展示
熊本国際民藝館	096(338)7504	熊本市北区龍田1の5の2	10時~16時	月曜休み(祝日の場合翌休)	外村吉之介の生涯~その2 海外の民藝~ ▼9月1日~11月30日 →外村吉之介が世界で出会い、収集した民藝の数々を展示し、各国の民衆の生活に根差した工芸と、外村吉之介が感じた民藝の身しさを紹介する
熊本県伝統工芸館	096(324)4930	熊本市中央区千葉城町3の35	9時~17時	月曜休み(祝日の場合翌休)	久留米かすり 藍華 田中耕工房展 ▼8月31日~9月5日 熊本県伝統工芸館・熊本国際民藝館交流展 民藝 こちよい暮らし ▼9月7日~10月3日 第7回桔梗会・女性の手による工芸展 ▼9月22日~26日 →山鹿市の女性の手作り集団・桔梗会の作品展 華麗なる絞りの世界 ▼9月28日~10月3日 →京都絞り工芸館の展示会 手作りニット二人展 ▼9月28日~10月3日 →米村弘子・安田西都子によるニット作品展示
那覇市歴史博物館	098(869)5266	那覇市久茂地1の1の1ベレットくもじ4F	10時~19時	木曜休み	流水文様の衣装 ▼8月6日~9月1日 鳥の文様の紅型衣装 ▼9月3日~27日